

第105回 県病ふれあいコンサート
弘前大学医学部管弦楽団
夏の県病コンサート

2018年8月3日(金) 6:30pm~

青森県立中央病院 外来ホール

出演: 弘前大学医学部管弦楽団

ヴァイオリン独奏: 中野真幸(医学部4年)

指揮: 馬場正之(県病 医療顧問)



プログラム

1. モーツァルト: アントレッター・セレナード 二長調 Kv185 前半
#1. 行進曲 二長調 Kv 189 #2. 序曲: アレグロ・アツサイ
#3. アンダンテ #4. ロンド・アレグロ
2. 日本の夏: 夏は来ぬ~海~浜辺の歌
3. モーツァルト: アントレッター・セレナード 二長調 Kv185 後半
#5. メヌエツト #6. 終曲: アダージョ/アレグロ

本日のプログラム

アントレター・セレナードは、ザルツブルクの大富豪アントレター家の長男の大学卒業祝賀会用に16歳のモーツァルトが1773夏に作った曲です。会場入場時の行進曲(Kv189)も付随して作曲されましたので、本日はその行進曲をご披露してから、ゴージャスな祝宴序曲、ヴァイオリン独奏を伴う優雅なアンダンテとリズムミクなロンドを続けます。実際の祝宴の間には歌や踊りなどが入りましたので、本日はその代わりに、懐かしい日本の夏の曲を挟んでみることに致します。セレナード後半を飾るのは、堂々たるメヌエットと荘重なアダージョに続く活発なジグ舞曲です。

弘前大学医学部管弦楽団

1994年に弘大医学部学生と教職員によって結成された室内オーケストラ。弘大医学部創立50周年記念式典で医学部職員と学生によるバッハ第2管弦楽組曲の祝賀演奏(ソロ・フルート:馬場正之)が出席者に感銘を与えたことから、歴代医学部長の支援により弘大医学部内の常設団体として活動を開始。教養部で古典音楽演奏論を開講していた馬場神経内科助教授(当時)を常任指揮者として練習を重ね、20数年にわたり弘大附属病院での四季折々のコンサート、医学部関連行事や種々の医学会などで毎年数~10数回の演奏活動を続けています。また、県病コンサートも2007年以来毎年欠かさず継続中です。これまで取り上げた主な曲は、ブランデンブルク協奏曲、管弦楽組曲、チェンバロ協奏曲、ヴァイオリン協奏曲、フーガの技法など多数のバッハ作品、ヘンデル、ヴィヴァルディ、コレルリ、テレマン、パーセル、パッヘルベル、ラモーなどのバロック管弦楽曲や各種コンチェルトのほか、最近ではモーツァルトやハイドンにも力を入れています。特にオーセンティックな表現を目指す観点から、1790年代までチェンバロ(ハープシコード)が加わっていたという史実にもとづき、当楽団ではモーツァルト・ハイドンの曲でもチェンバロを加えた演奏を標準としています。

馬場正之 指揮

1948年八戸生まれ。弘大学生時代より吉田雅夫、多田逸郎氏らにフルートとリコーダーの手ほどきを受け、世界最高のチェンバロ製作者と謳われた堀栄蔵氏に古典調律法を師事。1970年より弘前室内楽集団のフルート/リコーダー奏者として活動。79年~83年英国政府医学研究審議会研究員としてロンドン大学神経研究所に留学中に、ロンドン市ギルドホール芸大でNハッデン、Pピケット各氏にバロック・リコーダーを、バース古楽フォーラムでJソラム氏にバロック・フルートを、Wバーグマン、Jホロウェイ両氏に古典室内楽を師事。帰国後は弘大附属病院で神経内科を担当する一方、教育学部音楽科今井民子教授(バロック・ヴァイオリン)と共に古楽演奏論を開講。85年より弘前バッハアンサンブルに参加し、30年に及ぶバッハのミサ・カンタータ連続演奏でフルート/リコーダー・ソロを担当。これまでウィーン、ザルツブルク、フランクフルト、パリ、ライプチヒ、ニューヨークなど欧米十数都市で演奏。2014年東京紀尾井ホールでの演奏が「懐の深いフルート」(音楽の友)と評される。95年から弘大医学部室内管弦楽団を率いて200回を超えるコンサートを指揮。本職では弘大附属病院神経内科診療科長、県病神経内科部長などを歴任、現在、青森県病医療顧問。